



平成27年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年1月14日

上場会社名 松竹 株式会社 上場取引所 東 札 福
 コード番号 9601 URL <http://www.shochiku.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 迫本 淳一
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 関根 康 TEL 03-5550-1699
 四半期報告書提出予定日 平成27年1月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年2月期第3四半期の連結業績（平成26年3月1日～平成26年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年2月期第3四半期	68,149	1.8	6,074	△11.5	5,134	△3.1	3,348	3.3
26年2月期第3四半期	66,953	14.7	6,867	184.7	5,299	323.5	3,240	188.0

(注) 包括利益 27年2月期第3四半期 5,637百万円 (2.2%) 26年2月期第3四半期 5,513百万円 (762.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年2月期第3四半期	24.36	—
26年2月期第3四半期	23.58	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年2月期第3四半期	198,662	74,586	37.5	542.18
26年2月期	203,742	69,517	34.1	505.32

(参考) 自己資本 27年2月期第3四半期 74,529百万円 26年2月期 69,470百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年2月期	—	0.0	—	4.00	4.00
27年2月期	—	0.0	—		
27年2月期(予想)				3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年2月期の連結業績予想（平成26年3月1日～平成27年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	90,270	1.5	6,490	△24.6	5,340	△17.8	3,330	62.3	24.22

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー 社（社名） 、除外 ー 社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年2月期3Q	139,378,578株	26年2月期	139,378,578株
② 期末自己株式数	27年2月期3Q	1,915,517株	26年2月期	1,899,920株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年2月期3Q	137,471,636株	26年2月期3Q	137,429,353株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府の経済政策や日銀の金融緩和政策の効果もあり緩やかな回復基調を見せましたが、消費税引き上げ後の個人消費の低迷や円安による物価上昇の懸念もあり、依然不透明な状況のまま推移しました。

このような状況下、当企業グループはより一層の経営の効率化を図り、積極的な営業活動を展開いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間は、売上高68,149百万円(前年同期比1.8%増)、営業利益6,074百万円(同11.5%減)、経常利益5,134百万円(同3.1%減)となり、特別利益470百万円、特別損失66百万円を計上し、四半期純利益は3,348百万円(同3.3%増)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(映像関連事業)

映像関連事業におきましては、「トランセンデンス」は厳しい結果となりましたが、「超高速！参勤交代」「好きっていいなよ。」が高稼働しました。夏休みには「ホットロード」が、幅広い層の観客を獲得し、好成績を収めました。また、第27回東京国際映画祭で観客賞と最優秀女優賞を受賞した「紙の月」は高い評価を得て、健闘しました。「柘榴坂の仇討」「エクスペンダブルズ3 ワールドミッション」は堅調に推移しました。その他、ODS(非映画デジタルコンテンツ)作品として「機動戦士ガンダムUC episode 7-虹の彼方に-」「THE NEXT GENERATION-パトレイバー-」等を公開し、収益に貢献しました。

興行は、(株)松竹マルチプレックスシアターズ運営の各劇場では、大ヒットとなった「アナと雪の女王」をはじめ、邦画では「STAND BY ME ドラえもん」「るろうに剣心 京都大火編/伝説の最期編」、洋画では「マレフィセント」等が高稼働しました。

テレビ制作、映像ソフト、テレビ放映権販売、海外向け作品販売等は堅調に推移しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は36,110百万円(前年同期比6.9%増)、セグメント利益は2,180百万円(同151.9%増)となりました。

(演劇事業)

演劇事業におきましては、歌舞伎座は、新開場一周年と、松竹の歌舞伎座経営百年を記念した「鳳凰祭」大歌舞伎公演を3月、4月に行い活況を呈しました。その他、十二世市川團十郎一年祭「團菊祭五月大歌舞伎」をはじめ、毎月充実した話題の舞台を繰り広げました。

新橋演舞場は、3月は市川猿之助と佐々木蔵之介の出演によるスーパー歌舞伎Ⅱ(セカンド)「空ヲ刻ム者-若き仏師の物語-」が大盛況となりました。その他、「滝沢歌舞伎2014」「松竹新喜劇爆笑七夕公演」等、バラエティに富んだ公演となりました。また、10月歌舞伎座、11月新橋演舞場と2カ月にわたる「十七世中村勘三郎二十七回忌 十八世中村勘三郎三回忌 追善」公演が好成績を収めました。

大阪松竹座は、4月のスーパー歌舞伎Ⅱ(セカンド)「空ヲ刻ム者-若き仏師の物語-」と6月の藤山直美主演の「母をたずねて膝栗毛」は、新橋演舞場での盛況を受けての上演で、大阪松竹座でも大好評の公演となりました。関西ジャニーズJr.公演、恒例の「七月大歌舞伎」、新たな演出で話題となった「十月花形歌舞伎」等が評判を呼びました。

南座は、6月の「坂東玉三郎特別舞踊公演」は趣向を凝らした演目でお客様を魅了しました。歌舞伎十八番ならではの荒事の魅力が満載の「壽三升景清」が話題となった「九月花形歌舞伎」が収益に貢献しました。

その他の松竹公演は、コクーン歌舞伎二十周年を迎えたシアターコクーンでは、「三人吉三」のエネルギーな舞台が高い評価を得ました。また、青山劇場では、名作漫画を舞台化した「ガラスの仮面」が好評でした。「明治座 五月花形歌舞伎」「六月博多座大歌舞伎」「明治座十一月花形歌舞伎」等の受託製作を行いました。巡業、シネマ歌舞伎、METライブビューイング、その他演劇関連事業は、堅調に推移しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は20,112百万円(前年同期比10.6%減)、セグメント利益は2,546百万円(同50.6%減)となりました。

(不動産事業)

不動産事業におきましては、不動産賃貸は、歌舞伎座タワー、築地松竹ビル（銀座松竹スクエア）、新宿松竹会館、有楽町センタービル（マリオン）、松竹倶楽部ビル、大船の松竹ショッピングセンター、新木場倉庫等の稼働が順調に推移し、安定収入に貢献しました。各ビルとも効率的運営、経費削減に努めることにより、計画通りの利益を確保しました。歌舞伎座タワーはリーシング100%を達成し、築地松竹ビルでは、大型テナントの企業が今夏に退出しましたが、精力的なテナント誘致を実施し、後継テナントが100%決定しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は7,533百万円（前年同期比16.2%増）、セグメント利益は2,706百万円（同21.1%増）となりました。

(その他)

プログラム・キャラクター商品は、「劇場版TIGER&BUNNYーThe Risingー」「機動戦士ガンダムUC episode 7ー虹の彼方にー」「THE NEXT GENERATIONーパトレイバーー」「新劇場版 頭文字D Legend 1ー覚醒ー」等、コアファンを有する作品の売上が好調で、「超高速！参勤交代」「ホットロード」等の自社配給作に加え、「るろうに剣心 京都大火編／伝説の最期編」といった邦画作品の売上も好調に推移しました。

イベント事業は、新たに「ペネロペプレイランド」「片岡愛之助の世界展」等を開催し、好評を得ました。また、「松竹歌舞伎屋本舗」は売上好調で収益に貢献しました。

貸衣裳事業、清掃事業及び舞台大道具製作事業は堅調な成績をあげています。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,393百万円（前年同期比4.6%増）、セグメント利益は561百万円（同5.3%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ5,080百万円減少し、198,662百万円となりました。これは主に投資有価証券が増加したものの、現金及び預金の減少等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ10,150百万円減少し、124,075百万円となりました。これは主に長期借入金（責任財産限定）が増加したものの、1年内返済予定の長期借入金（責任財産限定）及び1年内償還予定の社債（責任財産限定）の減少等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ5,069百万円増加し、74,586百万円となりました。これは主に利益剰余金及びその他有価証券評価差額金の増加等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年2月期の連結業績予想につきましては、当第3四半期累計期間の業績、今後の見通し及び株式市場の動向を検討した結果、現時点においては平成26年10月10日付「業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしました業績予想からの変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,163,208	12,421,385
現金及び預金（責任財産限定対象）	10,126,807	7,488,948
信託預金（責任財産限定対象）	4,721,705	5,425,481
受取手形及び売掛金	6,096,496	6,846,450
有価証券	300,000	1,791,552
商品及び製品	1,536,427	1,827,750
仕掛品	1,564,342	2,648,946
原材料及び貯蔵品	77,039	89,790
その他	3,360,042	3,550,768
貸倒引当金	△17,664	△18,943
流動資産合計	47,928,403	42,072,130
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	19,516,253	18,877,574
建物及び構築物（責任財産限定対象）（純額）	21,814,242	21,163,624
信託建物（責任財産限定対象）（純額）	12,206,259	11,880,813
設備（純額）	11,948,831	10,965,176
土地	21,995,920	21,995,920
信託土地（責任財産限定対象）	18,751,834	18,751,834
その他（純額）	5,765,268	5,813,588
有形固定資産合計	111,998,611	109,448,534
無形固定資産		
のれん	1,666	—
その他	2,906,430	2,906,832
無形固定資産合計	2,908,096	2,906,832
投資その他の資産		
投資有価証券	17,953,520	21,679,617
長期前払費用（責任財産限定対象）	14,078,447	13,871,890
その他	9,076,008	8,892,146
貸倒引当金	△200,301	△208,897
投資その他の資産合計	40,907,675	44,234,757
固定資産合計	155,814,383	156,590,124
資産合計	203,742,786	198,662,255

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,162,420	6,350,900
短期借入金	6,090,000	5,665,000
1年内償還予定の社債	—	1,100,000
1年内償還予定の社債(責任財産限定)	10,000,000	—
1年内返済予定の長期借入金	10,205,766	10,685,342
1年内返済予定の長期借入金(責任財産限定)	25,700,000	1,631,000
未払法人税等	1,497,282	1,087,280
賞与引当金	408,757	218,434
劇場閉鎖損失引当金	782,587	—
その他	10,868,242	11,671,421
流動負債合計	70,715,058	38,409,378
固定負債		
社債	1,100,000	—
社債(責任財産限定)	—	500,000
長期借入金	28,284,435	25,596,489
長期借入金(責任財産限定)	18,475,000	41,053,500
退職給付引当金	1,743,572	1,841,394
役員退職慰労引当金	694,982	713,878
資産除去債務	1,279,556	1,261,558
その他	11,933,107	14,699,122
固定負債合計	63,510,654	85,665,944
負債合計	134,225,712	124,075,322
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,018,656	33,018,656
資本剰余金	30,135,347	30,135,347
利益剰余金	3,968,599	6,763,846
自己株式	△1,305,116	△1,319,779
株主資本合計	65,817,487	68,598,070
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,652,756	5,931,405
その他の包括利益累計額合計	3,652,756	5,931,405
少数株主持分	46,830	57,456
純資産合計	69,517,074	74,586,932
負債純資産合計	203,742,786	198,662,255

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)
売上高	66,953,064	68,149,595
売上原価	36,798,585	38,168,554
売上総利益	30,154,478	29,981,040
販売費及び一般管理費	23,287,026	23,906,194
営業利益	6,867,451	6,074,845
営業外収益		
受取利息	42,243	30,292
受取配当金	168,489	148,683
還付消費税等	95,521	164,614
負ののれん償却額	3,423	2,662
その他	94,466	63,889
営業外収益合計	404,144	410,143
営業外費用		
支払利息	1,313,105	968,118
借入手数料	381,006	314,876
持分法による投資損失	17,384	756
その他	260,197	66,873
営業外費用合計	1,971,694	1,350,624
経常利益	5,299,901	5,134,364
特別利益		
劇場閉鎖損失引当金戻入額	—	366,587
受取和解金	—	103,514
特別利益合計	—	470,101
特別損失		
固定資産除却損	59,478	66,253
特別損失合計	59,478	66,253
税金等調整前四半期純利益	5,240,423	5,538,212
法人税、住民税及び事業税	1,458,393	1,955,338
法人税等調整額	539,710	223,996
法人税等合計	1,998,104	2,179,335
少数株主損益調整前四半期純利益	3,242,318	3,358,877
少数株主利益	2,236	10,625
四半期純利益	3,240,082	3,348,251

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,242,318	3,358,877
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,267,950	2,278,352
持分法適用会社に対する持分相当額	3,239	293
その他の包括利益合計	2,271,189	2,278,645
四半期包括利益	5,513,508	5,637,522
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,511,272	5,626,897
少数株主に係る四半期包括利益	2,236	10,625

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	33,775,612	22,496,087	6,481,003	4,200,361	66,953,064	—	66,953,064
セグメント間の内部売上高又は振替高	81,617	109,167	1,266,826	3,272,394	4,730,005	△4,730,005	—
計	33,857,229	22,605,254	7,747,829	7,472,756	71,683,069	△4,730,005	66,953,064
セグメント利益	865,837	5,154,225	2,235,675	533,446	8,789,184	△1,921,732	6,867,451

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。

2. セグメント利益の調整額△1,921,732千円には、セグメント間取引消去25,277千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,947,010千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年3月1日至平成26年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	36,110,215	20,112,685	7,533,360	4,393,333	68,149,595	—	68,149,595
セグメント間の内部売上高又は振替高	124,911	77,793	1,275,213	3,518,947	4,996,865	△4,996,865	—
計	36,235,126	20,190,478	8,808,573	7,912,281	73,146,460	△4,996,865	68,149,595
セグメント利益	2,180,720	2,546,699	2,706,848	561,790	7,996,058	△1,921,212	6,074,845

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。

2. セグメント利益の調整額△1,921,212千円には、セグメント間取引消去39,756千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,960,969千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。